

新門司沖土砂処分場（Ⅱ期）公有水面埋立事業の概要

北九州空港の福岡県沿岸側（西側）の新門司沖土砂処分場では、現在、浚渫土砂の受入れを行っている。また、同空港の沖側（東側）には以下の埋立事業が計画されており、環境影響評価の手続きが平成26年度から始められ、平成27年10月に「環境影響評価準備書」が公表されている。

事業者：国土交通省 九州地方整備局
 事業の種類：公有水面の埋立て
 事業の規模：埋立区域の面積 約250ha

（1）事業の目的

関門航路（関門橋より東側の範囲）、北九州港の新門司航路及び苅田港の本航路では、近年の船舶大型化による物流の効率化、海上交通の安全性向上、港湾機能の拡充等のための整備を進めている。関門航路（関門橋より東側の範囲）及び北九州港の新門司航路等の整備に伴って発生する浚渫土砂については、現在、新門司沖土砂処分場で受入れているが、平成30年代中頃には受入土量が満杯になると想定されていることから、土砂処分場を拡張する必要性が生じている。

また、苅田港においても、港湾機能の拡充や船舶の大型化による物流の効率化を図るため、航路整備を進めているが、当初、受入れを計画していた個所での浚渫土砂の受入れが困難となったことから、「新門司沖土砂処分場（Ⅱ期）」が計画された（図-1）。

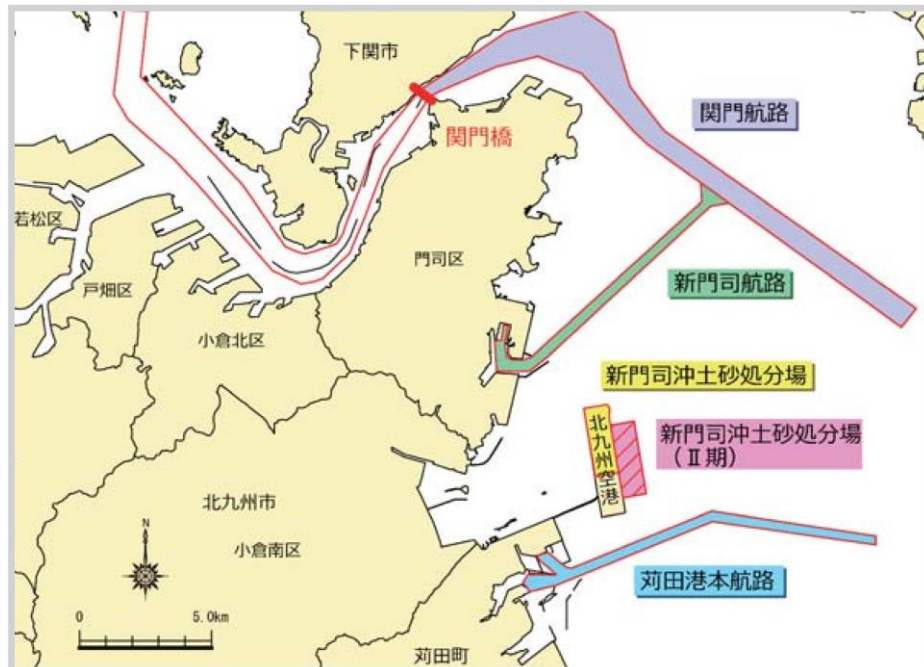


図-1 土砂処分場計画地の位置

（出典）国土交通省九州地方整備局「新門司沖土砂処分場（Ⅱ期）公有水面埋立事業 環境影響評価準備書」

(2) 埋立ての位置と工程

新たな埋立区域は北九州空港沖側の約 250ha の区域 (図-2) で、工事期間は、護岸工事・埋立工事・撤去工事まで含めて 20 年以上の事業計画となっている (表-1)。埋立工事は 7 年次以降に実施する計画である。

埋立地の設置位置や形状については、陸側にある曾根干潟への影響を低減するため潮流シミュレーションを実施して環境面の評価を行い、また、将来の土地利用や施工の制約、整備コスト等も考慮して決定されている。



図-2 北九州空港沖側の埋立区域

(出典) 国土交通省九州地方整備局「新門司沖土砂処分場 (Ⅱ期) 公有水面埋立事業 環境影響評価準備書」

表-1 概略工事工程

工事区分		年次					期間
		1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	
護岸工事	設置工事	—————					約 14 年間
	撤去工事				———		約 4 年間
埋立工事			—————				約 12 年間

(出典) 国土交通省九州地方整備局「新門司沖土砂処分場 (Ⅱ期) 公有水面埋立事業 環境影響評価準備書」